

「鉄平石との出会い(2)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

子どもは石が好きだ。あんな無機質で冷たいもののどこに魅力があるのか不思議なくらい、石というものに興味を持つ。幼児でも同じだ。たぶん、人間には「石はすばらしいもの」という遺伝子が含まれているのだろう。縄文人が黒曜石に興味を示した時から、その遺伝子が受け継がれているように思えてならない。



鉄平石のかけらは、いたるところにあり、さすがは日本を代表する産地だ。私はこの岩石の鑑定に徹した。私はこの岩石のわずかな特徴を説明しただけだったが、子どもが拾ってくるものの、7割は鉄平石だった。



中にはこんなに大きな岩塊を探し出した一団もいた。これではまるで「十戒」の石版である。子どもの一人は「これ、ロゼッタ・ストーンです」と言っていた。なかなかすばらしい例えだ。持ち帰りたせがんでいたが、さすがにこれは大きすぎる。そのかわり、私はその場で割って見せることにした。



「石を割る」ということは、岩石採集や化石採集ではごく普通に行うことだ。しかし、子どもたちの反応は面白かった。「石って割れるの? スゴイ!」と興奮気味だった。落ちていた鉄平石は、周囲に風化が見られ、泥や地衣類などで汚れているものが多い。岩石の観察で大切なのは、新鮮な断面である。小さく割れた鉄平石は、断面が風化されていないので、新鮮な組織(鉱物の並び)が見える。私は割れた小片を、希望する子どもたちに持たせてあげた。



鉄平石は、その薄く割れる性質から、諏訪地方では屋根を葺く材料として重宝された。重くて薄いので、強風や積雪に好都合だったのである。しかし長距離の運搬が難しく、他の地域には広まらなかった。

現在では運搬も容易になり、天然建材として流通している。写真は敷地の外壁の葺き石として利用された鉄平石である(田園調布の住宅街)。このように平らな面を縦に並べる方法以外にも、あえて寝かせて積み上げたものも見かける。いずれも手間のかかる工法なので、かなり高級な住宅に見られる建材だ。